（別紙６－２）

学 生 海 外 研 修 報 告 書

鹿児島大学長　殿

【研修参加者】

所 属（学部（研究科）・学年）: 水産学部・2年

氏 名: 福田　誉

授業科目名	海外研修・実用英語（海外研修）

1．研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。（250～300字程度）

今回の研修を通して学ぶことができたことは大きく三つある。一つ目は海外への行き方や生活の仕方である。私は今回の研修が初めての海外への渡航であった。海外に行くにあたっての入国審査等の準備、換金の仕方、生活様式など多くの大切なことを学ぶことができた。二つ目はフィリピンでの水産業や市場やマーケットの様子を知ることができたことである。国や地域のニーズによって水産業やマーケットの機能は大きく変化することがわかった。三つ目は海外の人とのコミュニケーションである。私自身あまり英語を話すことが得意ではないが英語を使う機会が多かったことで英語力が身についたと思う。また、コミュニケーションをとる中で大切なことにも気づくことができた。

2．現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。（250～300字程度）

現地での生活を体験して得た気づきは働いている人がとても楽しそうであったことである。市場や空港、ショッピングモールなどさまざまな職場を見たがどこの職場でも働いている人は笑顔な人が多かった。日本ほど厳格に働いている感じではなかったが、大きく困ることもなかったためフィリピンの働き方も良いと思った。また、フィリピンで現地の方とコミュニケーションを取る中で積極的にコミュニケーションをとる機会を作る大切さを改めて認識した。英語が通じない場面が多く、最初は困惑したがコミュニケーションを重ねていくことで自分自身成長していくことを実感することができた。

3．研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。（250～300字程度）

研修前と後での自身が最も成長した経験はフィリピン大学でのプレゼンテーションの発表である。当日はフィリピンの高校生も見にきてくれていたが落ち着いて発表することができた。今まで上手く人前で発表することができず悔しい思いもすることが多かったため大きく成長できたと思う。また、プレゼンテーションのスライドを作っていくなかでフィリピンの水産業についての考えも深まった。今までは外国の水産業は技術がなく未発達だという認識だったが、調べていくうちに刺身という文化がなく高い鮮度を求めていないためだということに気づくことができた。また日本の水産業の良さにも改めて気づくことができた。

4．地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。（250～300字程度）

地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいことはさまざまなボランティア活動に参加していくことである。ボランティア活動を通して多くの人とのコミュニケーションや貴重な経験をすることができると思う。これらは地域社会の発展だけでなく、自分の社会で活躍する力を育てることにもつながると考える。
そして、今後の自分の目標は自分自身で海外に行ってみることである。今回の研修を通して海外への行き方や過ごし方を学ぶことができた。なので、次は自分でどこまでできるのか実践してみたいと思う。大学生活を通して色々なことに取り組んでいきたい。

（別紙６－２）

学 生 海 外 研 修 報 告 書

鹿児島大学長　殿

【研修参加者】

所 属（学部（研究科）・学年）：水産学部・2年

氏 名：長井 双花

授業科目名	海外研修・実用英語（海外研修）

1．研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。（250～300字程度）

研修先であるフィリピンでの学習内容としては、マニラの公設市場の見学、パブリックマーケットの見学、ギマラス島の養殖場の見学等を行い、日本とフィリピンの水産物の販売の仕方の違いや仕組み、消費について学び、英語で発表するというものであった。実際に現地の水産物売り場や、養殖場に行くことで写真や動画では感じることのできない匂いや、味、気候などを知ることができた。また現地の職員の方が施設などの説明をして下さるため、すべて英語で行われた。その中で聞き取る力や、英語で質問や会話する力を鍛えることができた。そしてプレゼンテーションでは、現地の先生にスライドづくりのアドバイスを頂いたり、原稿の添削をしてもらうことでスピーチの構成も学ぶことができた。

2．現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。（250～300字程度）

現地での生活を通して得た気づきや学びは、水道が出ることが当たり前ではないということ、食べ物や部屋にアリが出ないことも当たり前ではないということ、そして英語が流暢でなくても意思の疎通はできること、日頃慣れていない交通手段や土地であっても臨機応変に対応することで目的地に着けるということである。この中で特に実感したことは英語が完璧に話せなくても、通じるということである。英語を聞くときもすべてを聞き取ることは難しかったが、知っている単語が分かればなんとなく言っていることが理解できた。同じように話すときも文を完璧に組み立てなくても、シンプルな単語をつなぎ合わせれば相手に伝わるのだと感じた。

3．研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。（250～300字程度）

フィリピンでの自由活動の時間に友達とまだ一回も行ったことがない教会に行くことになった。フィリピンでは交通手段としてジープと呼ばれる乗り物がある。これはバス停などがなく降りるところが決まっていなかったり、ルートも様々あり最初は難しく感じる。私たちはジープを利用することにした。しかしジープにも種類がありどれに乗っていいか分からなかった。その時に友達と運転手の人に英語で教会に行くか聞き、何とかジープに乗ることができた。そして目的地にたどり着いた。帰りはどこからジープに乗ればよいか分からず、町の人にジープ乗り場まで案内してもらった。こういった経験から、言葉も流暢ではなく、土地勘のない所でも何とか目的地にたどり着けると学んだ。この経験からこれからは知らない場所だからと行くのを怖がるのではなく、行ってみようと思うようになった。

4．地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。（250～300字程度）

今回の研修でseafdecに見学に行けたことは水産学部の学生として非常にいい経験になり、水産学を学ぶことに対するモチベーションになった。どのような形で地域社会に貢献していくかは正直まだ決め切れていない。研究職として関わるのか、食品開発をするのか、養殖系なのか漁法なのか様々な形で貢献する方法がある。今までは魚類の生態などに一番興味があったが、今回の研修を通して養殖にも非常に興味が湧いてきた。また日本だけではなく世界の水産業の仕組みや、日本と海外の水産業の関わり方や技術の違いなどもさらに学びたいと感じた。そのためにも今は学生として、流通や養殖、魚類の生態など水産業に対する正しい知識を身に付ける必要があると感じた。将来地域に貢献するために、今のうちに水産学の基礎を学び、経験と知識を得たいと思う。

（別紙６－２）

学 生 海 外 研 修 報 告 書

鹿児島大学長　殿

【研修参加者】

所 属（学部（研究科）・学年）: 水産学部・2年

氏 名: 坂野　紬

授業科目名	海外研修・実用英語（海外研修）

1．研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。（250～300字程度）

自身の学習成果はフィリピンの水産業と比較したことで日本の水産業について再認識できた点である。研修中、フィリピンのフードサプライチェーンを視察し、日本とフィリピンではプロセスの違いがあると思われた。現地での視察や食事を通して、特に消費方法が異なっていることに気が付いた。日本では刺身用が人気であり鮮度が重要とされている。しかし、フィリピンでは刺身で食べることではなく、焼き魚やスープに入れて食べる方法が一般的であった。火を通さないものでは酢漬けをして食べられていた。そのため、日本では生産から流通を通して鮮度を保ち消費で鮮度を活かす食べ方がされ、フィリピンでは鮮度は重視されていないと思われた。

2．現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。（250～300字程度）

自身にとって初の海外で現地での生活では、日本とは随分異なる当たり前を体験した。はじめはその差異に戸惑いはあったものの、慣れていくとその当たり前を日本と比較して良い点や悪い点に気づくことができた。また、フィリピンの人々は歌を歌ってしまうほど常に笑顔で働いている印象であり、それについても驚いた。日本人や自身の働く姿勢を思い浮かべてみると、目の前の仕事だけに集中していて笑顔を忘れてしまっていると思われる。どの状況においても笑顔でいられるフィリピンの人々の明るい精神に感動した。そして、自身の物事に対するとらえ方についても見直す機会となった。

3．研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。（250～300字程度）

渡航前は英語を話せないという苦手意識ばかりが突っ走ってしまって話すことができなかった。現地での生活には英語は欠かせないし、研修先で毎回英語で質問を投げかけてみようと試みた。実際フィリピンの高校生と対話する機会があり、相手からとても興味を持って自分たちに質問を与えてもらいながらも自身もとても楽しい会話をすることができた。現地の人と英語での会話を通して、英語もコミュニケーションの道具のひとつであることを実感した。今後、外国人と英語で会話することがあっても、英語力の低さから逃げようとしないで、まずはコミュニケーションをしようという気持ちで挑んでいきたい。よりよいコミュニケーションを図るために、英語力をよりよく身につけていきたい。

4．地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。（250～300字程度）

地域社会の発展に寄与するためには、今回の研修で得たスキルや自信を活かして、日本に来た外国人の人々を援助する活動をぜひやってみたいと思われた。なぜなら、研修では国が違えばとても不慣れな場所であり生活するのにも困難であることを感じたからである。研修中は現地の先生やガイドが常に一緒に行動してくれて、わからないこともすべて教えてくれ安心感があった。そのようにして、外国人の人々にも同じ地域に暮らすものとして安心に生活できると思ってもらいたいと思う。今後の自身の目標としても、英語を用いたコミュニケーションで自分のコミュニティを幅広く持っていきたいと考えられる。

（別紙６－２）

学 生 海 外 研 修 報 告 書

鹿児島大学長　殿

【研修参加者】

所 属（学部（研究科）・学年）: 水産学部・2年

氏 名: 冨田　哲平

授業科目名	海外研修・実用英語（海外研修）

1．研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。（250～300字程度）

研修先では、フィリピン大学の先生方のご指導の下、各班ごとにプレゼンテーション作成に取り組んだ。その内容として、日本とフィリピンの漁獲対象種や漁法、販売形態、消費の違い等を比較してまとめた。作成にあたって、スライド内で用いるフィリピンの魚の写真や情報は、実際に現地の公設市場やマーケット内で撮影したものや聞き取りしたものを使用した。このプレゼンテーションを通して、日本とフィリピンの水産業について理解を深めることができた。また、プレゼンテーションをする際の注意点やコツを教わる講義も設けられており、今後発表をする際に有効活用できるだろうと思った。

2．現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。（250～300字程度）

私が現地での生活を通して、印象に残ったことは2つある。1つ目は、交通に関してだ。フィリピンの街中では、バスやタクシーの他にジプニーやトライシクルなどの日本では見られないような乗り物があった。その中でも、ジプニーは比較的安く乗車することができるので、満員であることが多く、乗車するだけでも一苦労であった。また、車内で金銭のやり取りをする際は現地語が飛び交うため、さらなる語学勉強が必要だと感じた。2つ目は、フィリピンで食べた料理には、米や魚を使ったものが多く、、日本食と共通する部分があると感じた。私は、渡航前は料理が口に合うか不安を抱いていたが、現地の料理はとても美味しかったので、安心できた。

3．研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。（250～300字程度）

私は、英語の中でリスニングに対して苦手意識を持っていたため、現地の人々の言葉が聞き取れるかが不安であった。実際、研修当初は、店員が何を言っているのかが理解できなかったため、食事をするのにも一苦労であった。しかし、この研修期間中に、現地での買い物や飲食店での注文、フィリピン大学の先生方との英語を通じたコミュニケーションを重ねたことによって、リスニング力が身についたと感じる。研修後半になると、一人で飲食店に行くことができるようになったり、現地の高校生とコミュニケーションを取ることもできた。この経験を忘れずに、今後の英語の活動に活かしていこうと思った。

4．地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。（250～300字程度）

地域社会の発展に寄与するためには、今回の研修のようなコミュニティ強化に繋がる機会を逃さずに、積極的に参加する必要があると感じた。今回の研修では、フィリピンの水産業について理解を深め、日本と比較することによって、それぞれの特徴や良い点、悪い点を知ることができた。それだけでなく、現地の学生との交流など、実際に参加してみないと経験できないことがたくさんあった。これからは、地域でのイベントごとに参加する機会を増やし、コミュニケーション力を育みつつ、今回の研修のような貴重な経験を積み重ねていきたいと思う。

（別紙６－２）

学 生 海 外 研 修 報 告 書

鹿児島大学長　殿

【研修参加者】

所 属（学部（研究科）・学年）: 水産学部・2年

氏 名: 西　望花

授業科目名	海外研修・実用英語（海外研修）

1．研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。（250～300字程度）

今回のフィリピンへの海外研修での目的は、鹿児島大学の水産学部生として、フィリピンの水産業が日本とどのように違うのか比較すること、加えて英語でのコミュニケーション能力の向上でした。マニラの公設市場や、ギマラスの養殖場、漁港など、ほかにも多くの水産施設を見学させていただきました。また、その後のプレゼンの用意のために調べたことも含めて気が付いたことは、日本とフィリピンの水産業の一番の違いは魚の保存方法、またはその保存状態にあると感じました。ただ単に衛生面での感覚の違いがあるだけではなく、生魚をよく食べる日本に対して、フィリピンでは魚を揚げて調理することが多く、このような消費方法の違いから保存方法も異なっているんだろうと感じました。英語でのコミュニケーションに関しては、飲食店や、学校生活、プレゼンなどで自身の能力を試す機会がありましたが、まだまだ課題が多いように感じました。

2．現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。（250～300字程度）

実際に十日間フィリピンで生活していて感じたことは、現地の人々がとても笑顔でフレンドリーだということです。私たちが観光客だったというのも少しは関係しているかもしれませんが、お店の人たちだけでなく通りすがる町の人たちもとてもフレンドリーで接しやすく、ときには手助けをしてくれる方もいらっしゃいました。空港で業務中の方もとてもフランクに接してくれ、日本ではあまり見られないような場面だなあと感じることが多くありました。地域によっては持ち物を取られないように要警戒しなければならないようなところや、ボディガードがついてくれるようなところもありましたが、私自身が想像していたよりもとても穏やかな町でした。

3．研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。（250～300字程度）

私自身の個人的な目標としては、知らない国、初めての友達など、いつもとは異なる環境下で少しでも自分自身が成長し、自立したいと考えていました。今回が初めての海外だったというのもあり、序盤は慣れない環境に気が滅入ることもありました。しかし、時がたつにつれて一緒に研修に参加している仲間とのきずなも深まり、ホテルやその周辺の飲食店を把握するなどしていくにつれて、徐々にフィリピンでの生活に慣れていきました。地元の大学に進学し、ずっと実家暮らしだった私にとっては一人にホテルに泊まることですら初めての経験でした。慣れない環境のなかで少しでも成長し自立できたのではないかと思います。

4．地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。（250～300字程度）

私が今後取り組んでいきたいことは、世界の水産業について知ることです。水産業について更に知識を広げることによって、水産に関して足りないものや余計なものが見えてくるようになり、地域社会の発展に貢献することができると考えたからです。また、今回の海外研修を通して、自分の英語でのコミュニケーション能力の低さを痛感しました。思うように自分の言いたいことがその場で発言できなかったり、現地の方々が何を言っているのかうまく聞き取れなかったりすることが多くありました。この悔しさを忘れずに、更に英語に取り組んでいきたいです。

（別紙６－２）

学 生 海 外 研 修 報 告 書

鹿児島大学長　殿

【研修参加者】

所 属（学部（研究科）・学年）：水産学部・2年

氏 名：加藤　舞

授業科目名	海外研修・実用英語（海外研修）

1．研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。（250～300字程度）

マニラやイロイロの公設市場やスーパーマーケットを訪問し、日本との違いを考慮しながら現地での水産商品の販売方法や取り扱いについて学んだ。また、現地の様々な料理を食べ、現地の水産商品や調理法を体験することができた。ギマラス島の水産試験場では海上生簀の上に立ち、養殖されている水産生物を間近に見ることができた。そして、研究者の方や市場の職員の方の説明を聞きフィリピンの水産業に関する知識を深め、フィリピンと日本の水産業の利点、課題点を発見することができた。フィリピンの水産業を文化という視点から学ぶこともできた。

2．現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。（250～300字程度）

私はアメリカやカナダなどの先進国は訪れたことはあったがフィリピンのような発展途上国は初めてだった。そのため、日本では当たり前のことだった上下水道設備など、驚くことが多かった。一番印象に残ったことはSMでの出来事だ。SMで換金をしている時、突然カラオケマシーンを販売している店員の方が歌い始めた。日本でやれば注意され、最悪解雇されるだろう。しかし、フィリピンでは周りの人も歌い始め皆楽しそうに仕事をしていた。国が違うとここまで国民性が違うのかと実感できた。そして、料理や文化など、フィリピンは中国の影響を大きく受けていると感じた。

3．研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。（250～300字程度）

研修前は話したいことが英語に変換できず英語を話すことを躊躇していたが、研修を経て伝わらなくても良いからとりあえず口に出してみるという行動ができるようになった。また、分からないことは自分で解決するのではなく人に聞くこともできるようになった。そして、最も成長した経験はジープに一人で乗れたことだった。ジープではタガログ語で行き先などのやり取りをする。ジープは地元の人も多く乗るのでフィリピン初心者には緊張感がある乗り物だった。しかし、研修の後半には一人でジープに乗ることができるようになり、達成感を感じた。

4．地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。（250～300字程度）

今回の研修を通して、日本では当たり前だと思っていたことがフィリピンではそうでないということが多々あった。もちろん、不便と感じることもあった。しかし、それ以上に当たり前のことに問題提起をする思考を身につけることができたと考える。また、郷に入れば郷に従えというように現地の言語を学ぶだけでなく、現地の文化に従いコミュニケーションをとることで現地の方との連携を円滑に進めることができると体感した。その経験や思考を生かして、フィリピンなどの発展途上国はもちろん日本での地域社会の発展に貢献していきたいと考える。

（別紙６－２）

学 生 海 外 研 修 報 告 書

鹿児島大学長　殿

【研修参加者】

所 属（学部（研究科）・学年）：水産学部・2年

氏 名：廣瀬　麻奈実

授業科目名	海外研修・実用英語（海外研修）

1．研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載してください。（250～300字程度）

研修先の大学では、英単語の発音の区別や水産に関する英単語を中心に学習しました。英単語の発音の区別は、「force」や「forth」といったような、日本語では同じように発音される単語の発音練習をしました。また、フィリピンと日本の水産業に関するプレゼンテーションを行い、それぞれの国の水産業の特徴や水産に関する英単語の定義などを学習しました。フィリピンと日本で食べられている水産物は、生産、取扱い・保存、加工、梱包、流通、消費など様々な視点から比較して、それぞれの食文化を成り立たせていることを知りました。これらの活動から、自身の英語発音の改善と、フィリピンと日本の水産業界に関する知識を得ることができました。

2．現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。（250～300字程度）

フィリピンでの約10日間を通して、入ったほとんどのレストランやショップ等で働く人たちが気楽に働いていたことが特に印象に残っています。宿泊したホテルのフロントでは、暇になるとホテルマンがゲームやアニメ観賞をしていることや、最終日のマニラ空港では飛行機の待ち時間中に、空港職員が待合席で互いの身なりを整える（眉毛をそって、化粧直しをしている）こともありました。日本では非難される可能性のある勤務状態でしたが、うまく仕事と休憩の切り替えをして働く様子でもありました。文化や風潮、マナーの違いはありますが、仕事への向き合い方への参考になるなと感じました。

3．研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。（250～300字程度）

フィリピンには水産物を生の状態で食べる習慣がなく、水産物を加熱した料理が一般的です。対して、日本では水産商品は加熱用であっても生で食べられる程の鮮度を維持してします。研修前は、私はフィリピンには魚を刺身で食べるための技術や制度が未発達であるから、魚を加熱しなければいけないのだと考えていました。しかし、あるレストランで活魚を焼き魚として提供していることを知り、フィリピンにはフィリピン独自の常識や食文化があり、あえて日本のものとは大きく異なる水産業界を維持していることを再認識しました。この事から、文化の違いだけでなく、助言であったとしても考えの押しつけになりうることを学びました。

4．地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。（250～300字程度）

今回の研修を通してフィリピンの水産物の研究内容やその様子、実際のマーケットや水産物の売り場の様子などを知っただけでなく、先述したように、文化の違いや自身の視点の狭さも大いに感じ取ることができました。今後地域社会の発展のために、私は年齢や出身など関係なく様々な人と関わり、考え方や価値観の相違点を見つけると共に、自身の視野を広くしていきたいと思っています。また、水産学部生として、さまざまな国や地域の伝統的な水産物の料理や食べ方、伝統的な考え方など水産物の知識を知り、実際に作り、食べてみたいと思います。

（別紙６－２）

学 生 海 外 研 修 報 告 書

鹿児島大学長　殿

【研修参加者】

所 属（学部（研究科）・学年）: 水産学部・2年

氏 名: 日髙　春希

授業科目名	海外研修・実用英語（海外研修）

1．研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。（250～300字程度）

フィリピンでの最初の活動は、マニラの市場視察だった。多くの種類の果物や肉・魚・米・卵などさまざまな食べ物が売られていた。日本では見られないような食材が多く並べられていた。肉や魚の売り場では、独特な臭いがきつかった。イロイロでは、市場の視察や、sm-city・現地の大学で主に活動を行った。市場は、マニラの市場と類似していた。sm-cityは鹿児島のショッピングモールよりも大規模なものだと感じた。想像していたよりもきれいな施設が多くあることが新しい発見であった。現地での大学での活動では、プレゼンテーションの仕方などについて深く学ぶことができた。先生方が熱心に教えてくださったため、私も真剣に学校での活動ができた。また、ジープという乗り物も自分ひとりで乗ることができるようになれてよかった。

2.現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載してください。（２５０～３００字程度）

現地での生活を通して得た気づきや学びは3つある。一つ目は、衛生面の違いだ。日本では、清潔さに気を遣うのは当たり前のように行われている。しかし、フィリピンでは市場を視察した限り衛生面に気を遣っているようには感じることはできなかった。二つ目は、ジープの乗り方だ。１回12ペソで乗れるという便利な乗り物だった。乗り方も降り方も今までに経験をしたことがないものだった。三つ目は、自由に生きることの大切さです。フィリピンの人たちはとてもマイペースの方が多く自由に生きているようだった。笑顔の人が多く明るいところなど、日本に足りないものを感じた。

3．研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。（250～300字程度）

私はこの研修を通して、自分に自信をつけることができた。外国では日本語を話しても通じない。よって、全ての場面で英語を使って話さなければならない。食事をするときも自分で店員と会話をして注文することがあった。短い時間ではあったが、普段日本語でやっていることを英語でやるだけで想像以上にストレスがかかった。また、ジープに乗ることでも自信がついた。一人で乗ったら乗るタイミング・降りるタイミングを、全部自分で見定めなくてはならない。このような普段は体験できない究極の場面に立ち、乗り越えたことで自分に自信をつけることができた。

4．地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。（250～300字程度）

今回フィリピンに行って最も感じたことは、貧富の差が地域・国単位で激しいということだ。スラム街のような光景が広がっているそのすぐ後ろに、高層ビルがいくつも連なっているのを見て私はとても驚いた。また、私たち日本人からしたら、人が住めるとは思えないような家がたくさんある中、二階建てくらいの高さのある看板を設置しているのを見かけた。私にはそれが特段重要なものには見えなかった。これらのことから、解決すべき課題を見極めることが大切さを知った。全体の利益は結果として個人の利益を生む。自分中心に考えることだけをせず、さまざまな面から物事を考えられるようにしたい。また、自分の可能性を広げるためにも英語で会話をできるようになりたい。